

保育所における子どもの健康と安全確保のための

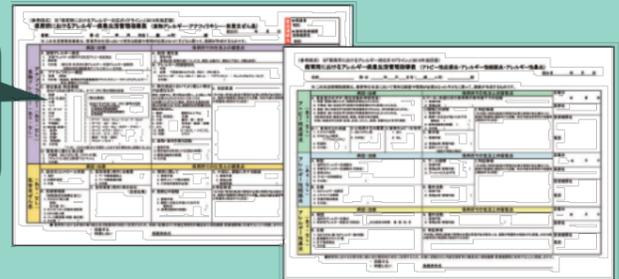
ガイドラインに基づいた アレルギー対応



日常的な対応の心得

- 生活管理指導表を利用していますか？
- 安心・安全の確保を優先していますか？
 - ・完全除去による対応
 - ・環境や体制の整備
 - ・誤食防止の対策
- アレルギー疾患を有する子どもの情報を全職員で共有していますか？
- 保護者や関連機関（自治体、医療関係者等）と連携していますか？

生活管理指導表に
基づく対応が
必須です！



生活管理指導表



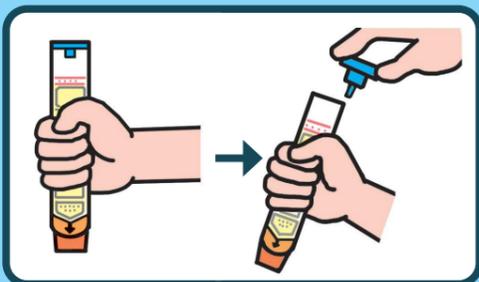
1つでも症状があてはまるときは直ちに119番！



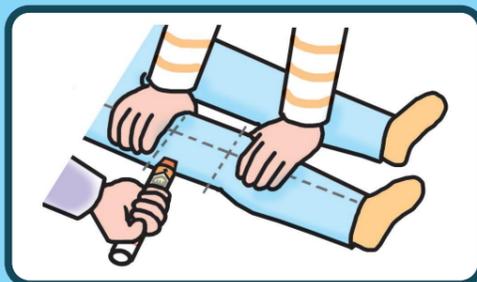
消化器の症状	● 繰り返し吐き続ける	● 持続する強い（がまんできない）おなかの痛み
呼吸器の症状	● のどや胸が締め付けられる ● 持続する強い咳込み	● 声がかすれる ● ゼーゼーする呼吸 ● 犬が吠えるような咳 ● 息がしにくい
全身の症状	● 唇や爪が青白い ● 意識がもうろうとしている	● 脈を触れにくい、不規則 ● ぐったりしている ● 尿や便を漏らす

日本小児アレルギー学会 一般向けエピペン®の適応（2013年7月）より

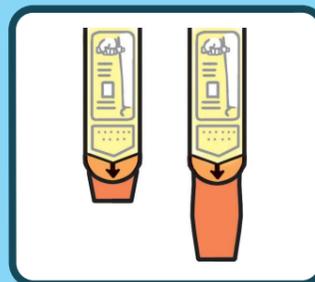
エピペン®の使い方（ガイドラインP.12もご参照ください）



- ① ケースから取り出す
- ② オレンジ色のニードルカバーを下に向け、利き手で持ち、グーで握る
- ③ 青い安全キャップを外す



- ④ 太ももの（中心の）外側に、エピペン®の先端（オレンジ色の部分）を軽くあて、“カチッ”と音がするまで強く押しあて、そのまま5つ数える



- ⑤ エピペン®を太ももから離し、オレンジ色のニードルカバーが伸びているか確認する

※伸びていない場合は、④に戻る



- ⑥ 打った部位を10秒間、マッサージする

救急搬送までの役割分担を常日頃から確認しておきましょう！
緊急時個別対応票を使って記録を忘れずに！

実際のガイドラインをご覧ください

保育所におけるアレルギー対応ガイドライン



ガイドラインP.13もご参照ください